# ダブルポート〈複合型雨水貯留槽〉

建技 審証

# 東京 神奈川

#### ●特長

# 1. 優れた経済性

二次貯留部にクロスウェーブを利用することで経済的なシステムが構築できます。

#### 2. 工期短縮

槽の構築には、大型重機での施工比率が低減されます。人力施工比率が向上する事で工期短縮がはかれます。

#### 3. 維持管理が簡単

流入土砂は設計によりプレキャストコンクリート貯留 槽に堆積させることが可能なため、施設全体の維持管 理が容易になります。

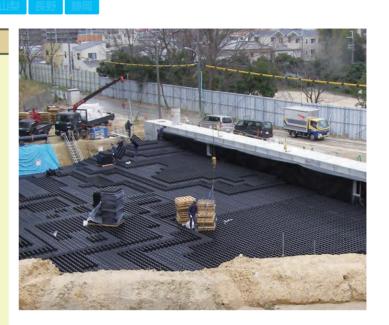
#### 4. 土地の有効利用

複雑な形状や狭い用地でも、プレキャストコンクリート 貯留槽とプラスチック貯留槽を自在に組合せることが できます。

#### 5. 建設技術審査証明取得

建設技術審査証明(下水道技術)

(公財)日本下水道新技術機構 建技審証第1224号 ※本審査証明は(株)ホクコン・積水テクノ成型(株)に 交付されたものです。



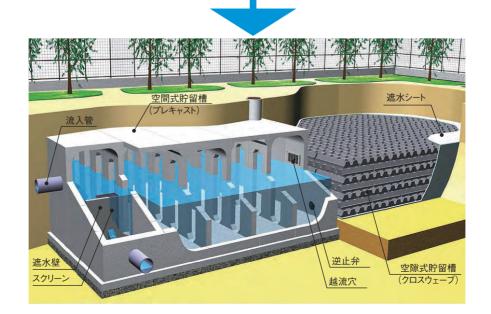
#### プレキャストコンクリート製貯留





# プラスチック製貯留槽(クロスウエーブ)





システム 概要

# 頻度の高い降雨時

#### 雨水流入 二次貯留槽 プラスチック -次貯留槽 貯留槽 放 流 逆止弁 貯留槽

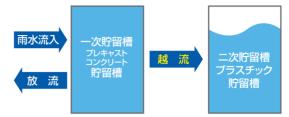
- ●一次貯留部は、流入・流出部の構築が容易で、流入してき た土砂等の搬出も容易にできます。
- ●一次貯留部内の雨水は、貯留容量を越えない限り二次貯 留部への流入は逆止弁により抑止する構造です。
- ●一次貯留部の容量は数年確率(5年程度※)の容量を確 保することで設定確率以下の降雨時は一次貯留部のみで 対応できます。

#### ※5年確率の降雨

- 1) 国土交通省 都市・地域整備局 下水道部での都市浸水対策整備基 準は5年に1回程度の規模の降雨でも被害が生じない水準とされていま
- 2)1997年~2003年度のアメダス観測データでは、大阪市・堺市・名古屋市 での5年確率以上の降雨発生頻度は、全降雨回数の1%程度です。

# まれに発生する大雨時

-次貯留容量オーバー時



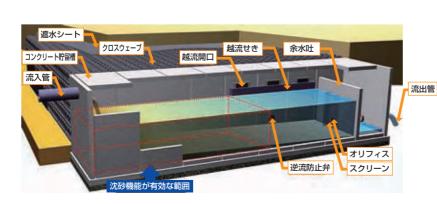
▶一次貯留槽水位低下時



- ■二次貯留部は経済的なプラスチック製貯留槽を用い、一 次貯留容量を越えるような降雨時は二次貯留部を利用し て貯留します。
- ●二次貯留部に貯留した雨水は、一次貯留部内の水位低下 に伴い、一次貯留部へ自然流下します。
- ■二次貯留部には雨水が越流する頻度が極めて低いため、 流入土砂の除去作業等のメンテナンスは不要になります。

2008年3月に(財)下水道新技術推進機構(現:(公財)日本下水道新技術機構) により、以下に示す性能を認められました。(2018年更新)

- ●コンクリート槽は、設計により粒径0.075mm以上の土砂を沈砂する機 能を有する。
- ●クロスウェーブが、下記の強度を有している。
  - ①鉛直方向圧縮強度:T-25 土被り0.6m~2.2m相当
  - ②水平方向圧縮強度:最大埋設深さ6.0m相当
  - ③クリープ特性:50年後の推定ひずみ値が、鉛直方向圧 縮強度時のひずみ値以下
- ●クロスウェーブが、軽量で人力による施工が可能である。
- ●越流開口部が、内・外水圧に対して0.06MPaの水密性を有している。







性能証明